

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぱらネット

第32号

平成29年度

## 「障害者週間」市民のつどい

～障害のある人もない人も

ともに生きる社会をめざして～



野田あすかさん



野田恭子さん

平成29年  
12月9日(土)

会場  
浦和コミュニティ  
センター  
浦和駅東口  
市民ひろば



浦和学院高等学校吹奏楽部



清水市長

## 基調講演・ミニ演奏会

## 「発達障害のピアニストからの手紙

〜どうして、まわりとうまくいかないの?〜

野田 あすか氏  
野田 恭子氏

平成二十九年度のさいたま市「障害者週間」市民のつどいで、野田恭子さん・あすかさん母娘による基調講演、ミニ演奏会が開催されました。三百十三人の観客は発達障害のピアニスト、野田あすかさんの奏でる演奏に感動しました。

基調講演で恭子さんは「あすかさんの生い立ち」「娘に謝罪と感謝の気持ち」を話しました。こだわりが強く、なぜ人と同じことができないのかと悩み、苦しんだ幼少期。成績は優秀で、親は「友達と楽しい学校生活を送っている」と思っていました。あすかさんが小学五年生のとき、兄は中学生となり、小学校では一人に。環境の変化に順応しようと、頑張りすぎて心身に異

常をきたすようになりました。高校生のときにいじめを受けて、人を信じられなくなり不登校に。環境に適応しきれず、ストレスからの自傷行為を家族にも話せませんでした。最近になって、あすかさんが当時悩んでいたことを知り「申し訳なかった」と話しました。

二十二歳で「発達障害」と診断され、両親は落ち込んだが、あすかさんは病名が分かっただけと語りました。あすかさんのオープニング曲は『愛燦燦』。小さいころ書いた手紙を元に作った『手紙〜小さいころの私へ〜』は心に染みるメロディと歌声でした。子供のころ住んでいた町にはホテルがいて、家族と過ごした思い出

の曲『なつかしき』。悲しみにどっぷりとつかっていてもいつか希望が見えてくる『哀しみの向こう』など自作曲三曲を演奏。軽やかに力強く弾きこなすショパンの『幻想曲』。あすかさんは本当にピアノが好きだということが伝わってきました。

曲の合間に「上手に弾けて良かったです」「拍手は大歓迎です」などとユーモアあふれるコメントがありました。

恩師に「感性に合わせて弾くのね」「あなたのままで良い」この言葉を聞いて、ピアノと友達になれたという。悲しみと試練を乗り越えたあすかさんのピアノは、私たちの心を癒してくれました。

全国ツアーが決まったあすか



さん。同じ悩みを持つ人々に、希望・勇気・感動を与えてくれると思っています。  
(障害者家族会連絡会・鈴木)

# 体験作文・障害者週間のポスター表彰

今年度も内閣府並びに都道府県・指定都市の共催で「心の輪を広げる障害者理解促進事業」が実施されました。

この「心の輪を広げる障害者理解促進事業」は障害の有無にかかわらず、誰もが地域や職場・学校などで共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人となない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」の募集を行いました。市で選考した結果、心の輪を広げる体験作文3作品と障害者週間のポスター2作品がさいたま市最優秀賞を受賞しました。

受賞者は、体験作文では、「弟のきょうだいさんかに行ったよ」を書いた海老沼小学校2年の細谷柊羽さん、「私に出来ることって?」を書いた大宮八幡

中学校2年の細沼亜耶さん、「絵葉書で元気になあれ」を書いた関根久遠さん、障害者週間のポスターでは、馬宮西小学校2年の吉田悠馬さんと浦和ルーテル学院中学校2年の砂川友美子さんです。

「障害者週間」市民のつどいにおいて表彰式を執り行い、受賞した方5名には、市長から直接、賞状が授与されました。

さいたま市障害政策課



今年も素適な作品がたくさん展示されました

## 作品展示から



# 全国障害者スポーツ大会

## 「えがおつなく愛媛大会」

さいたま市障害者協議会 渡辺 浩二

えがおつなく愛媛大会は、十二月二十八日から三十日の日程で開催され、選手二十名、役員二十名で参加しました。大会では選手一人一人が、日頃の練習の成果を存分に発揮し、そしてたくさんさんのメダルを獲得することができ、多くの人たちに勇気と感動を与えてくれました。また選手たちは、大会期間中サポートしていただいた、地元、愛媛のスタッフ、ボランティアの方々と交流を深め、たくさんさんの思い出を作ることができました。来年度は福井で開催されます。選手皆さん、来年度も、代表選手になれるようがんばって下さい。そして、代表選手の中から二十二年、東京オリンピックパラリンピックに日本代表として出場できるように期待しています。



浦和学院高等学校吹奏楽部



市民ひろばにて  
Yohn Lenno



マリンバ・プロムナース



# アトラクション



清水市長もお買い物

物品販売コーナー

物品販売出店団体

団体展示・休憩室

★さいたま市精神障害者

家族会連絡会

手作り厨ふあくとりー

仲良し作業所 ちひろコーヒー

ほっとラウンジ

★埼玉福祉事業協会

★あけぼの作業所

★さいたま市手をつなぐ育成会

★空想庭園 クオ・ヴァデイス

★エバーグリーン

★夢工房 大宮

Florist MIRAI

★日本オストミー協会

さいたま市支部

★ノーマライズうらわ

グリーンフィンガーズ

★さいたま市障害難病団体協議会

★久美愛園

★市民の会 大宮太陽の家

★OMIYAバリアフリー研究会

みつくすビートNEUE

(ノイエ)

★さいたま市聴覚障害者協会

★やどかりの里

やどかり情報館まごころ



団体展示



休憩室

# 団体企画

## ☆埼玉県

筋ジストロフィー協会

さいたま支部

アロママッサージ

筋ジストロフィーに関する展

示・映画等

☆さいたま市聴覚障害者協会  
手話教室・聴こえない体験



☆さいたま市手をつなぐ育成会  
さいたま市手をつなぐ育成会  
の活動や障害特性についての  
解説と体験

## ☆さいたま市

視覚障害者福祉協会

プロ施術者によるマッサージ

展示体験・ゲーム・華道展示



☆さいたま市精神障害者  
家族会連絡会

成年後見制度の相談会

精神疾患の展示解説

☆あいおいニッセイ同和損保

障害者スポーツパネル展示

ポッチャ体験

## ☆さいたま市ダウン症連絡会

音楽にあわせて思いっきり全

身を動かして楽しむ

(ムーブメント)



## ☆さいたま市

障害者生活支援センター

さいたま市障害者生活支援セ

ンターによる出張相談会

## ☆さいたま市

消費生活総合センター

消費生活に関する情報の提供

と啓発品の配布

## 市民のつどいー風景ー



スタンプラリー

# 市民のつどいを振り返って

市民のつどい副実行委員長 中野 勇

さいたま市障害者週間記念事業実行委員会さいたま市障害者協議会主催で、浦和コミュニティセンター十階、浦和駅東口駅前広場にて午前十時より午後四時まで開催されました。四月二十五日第一回実行委員会から一月二十日の第五回実行委員会まで、実行委員一六名、障害政策課三名、事務局で各種基調講演、発達障害をお持ちのピアニスト野田あすか氏、母親の野田恭子氏をはじめ、イベント音楽演奏「マリンバ・プロムナーズ」浦和学院高等学校吹奏楽部「ザ山崎ブラザーズバンド」を決定し、一二月八日開催前日に実行委員会が、コミュニティセンターに午後一時に集合し、ホールや各部屋の準備に入りました。当日、一二月九日午前八時四五分コミュニティセンターへ集合し、一〇時にさいたま市長清水



勇人氏のあいさつ、私副実行委員長のあいさつをして式典がはじまりました。「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」最優市長賞表彰がありました。いつもは小学生、中学生の作文に対して発表があるのですが、今回は時間の都合により中止になり残念でした。第一七回全国障害者スポーツ大会「えがおつなぐ愛媛大会」の成績発表報告会があり式典が終了しました。基調講演の感想、野田あすか氏・恭子氏の講演について、発達障害をもちながら、学生時代に様々ないじめにあいながらもピアノの先生の指導により、ピ

アニストとして更生した事に大変感動し、ホールがいっぱい聴衆者でした。

浦和学院高等学校吹奏楽部九十名の大演奏に聴衆が魅了されていました。

次年度も委員の皆さんの意見を取り入れながら開催していきたいと思えます。

## アンケートより

講演を聴いて様々な障害の種類があることがわかり有意義でした。

基調講演にとっても感動した。涙がでた。

大好きなピアノが苦手なコミユニケーションの壁を乗り越え人に感動を与えることが素晴らしい。

野田あすかさんの生き様に素晴らしいと思います。是非市内の子どもたちにも聴かせてあげたい。

発達障害という言葉が今ほど一般的でなかった時代に育つ

て、周りから理解されず、本人も家族もくるしんだことがわかった。弾き語りの手話付きの曲がよかった。

前向きな姿勢と経験談に理解が深まった。

吹奏楽が大好き。

スタンプリィは楽しい。

マリンバの演奏が素晴らしい。一緒に歌うことがあったが、歌詞が載っていると良いと思う。

皆さんがスポーツを通して触れ合うことが楽しかった。

はじめてプロの人にマッサージをうけて身体がほぐれました。マッサージが良かった。参加した子供達が楽しそうでした。

消費生活総合センター 母親の心を心配するきっかけを頂いた。

物品販売の声かけと接客がたいねいだった。地元の物品が良い。

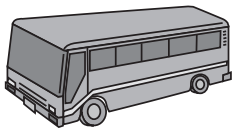
書道がとても素晴らしい。

# 「障害者協議会バス旅行に参加して」

稲葉 晃

去る2017年10月12日、さいたま市障害者協議会のバス旅行に参加しました。行先は国会議事堂と柴又帝釈天でした。まず、国会に行き、初めて中に入りました。天井は高く、カーペットはフカフカでした。警備員さんの説明を聴きながら国会の中を見学しました。天皇の休まれる部屋もあり、その部屋はかなりの金額で作られた様です。

お土産には議員バッジのレプリカを買いました。これで、いつ国会にお呼ばれしても大丈夫です。(笑)次に向かったのは柴又帝釈天です。お昼には、おでんを食べました。せっかくなので、人生で初めてのご朱印をいただき、お土産にお守りと最中を買いました。その後はガイドボランティアさんの案内で帝釈天周辺を散策しました。帝釈天の参道にはたくさんのお店が並び、駅前には寅さん像が立っていました。準備された方には大変なこともあったかと思いましたが、お陰さまで、楽しい旅行になりました。ありがとうございます。



# ふれあいスポーツ大会

## 2017に参加して

さいたま市手をつなぐ育成会  
黒澤 篤子

ふれあいスポーツ大会が岩槻区の文化公園にて開催されました。天候が心配な9月でしたが曇天の運動に良い日でした。送迎バスが遅れたためか昨年より参加者が少なく感じました。

当会場を使つての開催が参加者にも浸透して来た様で会場内のイベントに向かう姿が多く見受けました。スタンプラリーから体験企画へと多くの方の参加を得て賑やかでした。

歌って踊れる催しに参加する姿に体を動かすとは、競技参加のみでなく体を動かす体験を通して楽しい経験を多く持つ事の大切さを味わいました。

毎回事業関係者による屋台の食事も楽しみです。来年のふれスポに参加をお待ちします。

# 編集後記

娘が二十歳になり成人式を迎えました。たくさんの方々にお祝いの言葉をかけていただきました。二十年を振り返ったときに、私たち親子を、家族を支えてくださったたり、応援してくださったりと様々な形で多くの方が関わってくださいました。その人の温かさや優しさ、人と人のつながりの大切さを改めてしみじみと感じました。

メールなどの電子文字と違った生の言葉は、声という音が付くことによつて同じ言葉でも全く違つて受け取れたりします。言葉と言葉のキャッチボールは、一つの話題から何倍もの事柄を引き出します。

これからも、そうした人とのつながりを大切にゆつくりと娘と共に前に進んでいけたらと思います。

佐藤美也子

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三四一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 田口 秀之助